

# 兵庫県保険医協会 但馬支部ニュース

No.139

2013年12月5日発行

発行 兵庫県保険医協会但馬支部  
連絡先 〒668-0373 豊岡市但東町久畑1 2 6  
高橋診療所 TEL/0796-55-0036 FAX/0796-55-0008

会員懇談会『色平哲郎さんと地域医療について語り合う会』

## どうなる？これからの地域医療



これからの地域医療について活発に意見交換された

但馬支部は10月5日に会員懇談会企画として、戦後から農村医療を実践している長野県の佐久総合病院から、色平哲郎医師を招き、地域での医療・保健・介護の取り組みとともに、海外での幅広い知見もふまえて、これからの地域医療のあり方について懇談した。当日は、会員、但馬地域の公立病院副院長や中堅勤務医、研修医ら12人が参加。地域医療をどう守るかについて、活発に議論を交わした。2面に参加者からの寄せられた感想文を紹介する。

（2面につづく）

(1面からつづく)

感 想 文

今回私は色平医師に初めてお会いした。とても緊張しながら会場に入ったが、挨拶をすると握手しながら非常に気さくに挨拶を返して下さった。席について話が始めると、自分が知らない世界の話でいつの間にか入り込んでいる自分に気付いた。自分の想像以上の医療が世界にはあることを教えて頂いた。また、医療をきっかけに日本全体のこれからについて切り込んでおられた。



佐久総合病院地域ケア科  
色平哲郎先生



企画開催前に高橋診療所を見学  
(色平先生と新田誠支部長)

まず、地域医療とは単に過疎地域における医療ではないことを教えて頂いた。色平医師は医療の枠組みに囚われず、その地域全体を治療しているように感じた。病気になった人に治療するだけでなく、そもそも病気にならないように予防医学に取り組み、病気の治った後もその人らしい生活を可能にするコミュニティーのことまで考えておられた。しかもその地域に留まらず、視線は常に世界全体の医療のことまで向けられていることが話の中でとても伝わってきた。まさに地域医療から全世界に発信している global な医療だった。

私が「世界に飛び出すにはある程度医療に携わって、一人立ちできてからでないと飛び出す勇気はなかなかありません」と言うと、色平医師は「周りがしていないことをすることが上手くいくコツです」と教えてくださった。結局、どの医療のやり方が正解ということではなく、自分がしっかりと信念を持って一人一人の患者さんに向きあっていくことが重要であると感じた。

まだ医師として一歩目を踏み出したばかりで悩むことも多々あるが、まずはとりあえず目の前の患者さんに真剣に向き合っていこうと思えるようになった。 【公立八鹿病院 辻本 大起】

**\*お知らせ\***



- 兵庫県保険医協会のホームページは、  
<http://www.hhk.jp/>
- 会員専用のメーリングリストを開設しております  
登録いただける方は下記までお知らせください  
e-mail:hyogo-hok@doc-net.or.jp TEL:078-393-1801

## 第84回評議員会 但馬支部からの発言

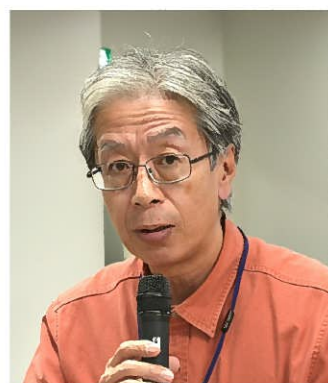
# 「会員ニーズに応える多彩な企画と勤務医対策」

下山 均 評議員（美方郡）

11月17日開催の第84回協会評議員会において、副支部長で協会評議員の下山均先生が「会員ニーズに応える多彩な企画と勤務医対策」について発言した。以下はその要旨。

但馬支部は、但馬全域を包括した活動の在り方を追究していくことを基本的姿勢として活動をすすめている。

支部では、この間、会員ニーズに応える支部企画を開催した。7月に開催した、支部総会では、柏原日赤病院院長・片山覚先生を講師に「ネット時代の医療情報共有～柏原赤十字病院での地域医療連携



下山先生が報告

の取り組み」を行い、会員、看護師、病院事務長ら29人が参加。片山覚先生は医療ICT（情報・共有・通信技術）の現在までの到達点と今後の発展性について、柏原日赤病院での実績を中心に解説頂いた。また、10月に佐久総合病院の色平哲郎医師をお招きし会員懇談会を開催した。開業医、勤務医、研修医が一同に会してこれからの地域医療について意見交換した。

シリーズ企画症例検討会「他科を知る会」は、整形外科領域に加えて、開業医が遭遇する皮膚科領域の症例をテーマに開催、公立豊岡病院専門医の秋山先生が「痒み」を伴う皮膚疾患について講演した。今後、夏のシリーズ企画として皮膚科領域の症例検討会を予定している。また、10月には会員からの要望もあり、協会「診療内容向上研究会」のネット配信による同時中継を開催した。

昨年から発足した支部医院経営研究会を11月に「医事紛争を避けるために」（講師：鵜飼万貴子 弁護士）をテーマに開催した。

病診連携の一環で9月に『2013年病医院医師名簿』を発行し、但馬地域に隣接する病院を含む全21病院を掲載、会員から要望のあった高齢者施設一覧も掲載した。但馬地域の病院・医院からは、「病診連携に役に立つ」と好評を得ている。

但馬地域の勤務医未入会員対策として、但馬地域の12の公立私立病院院長宛に新田誠支部長より紹介状を得て、全病院を訪問。11月には、公立香住病院医局での説明会を予定している。また、公立豊岡病院の勤務医会員より「病院内で研修医、若手医師のためのライフプランセミナーを保険医協会と共催で開催したい」との要望があり、協会から講師派遣など協力予定である。支部では勤務医対策の一環としてこの企画の成功に向け準備を進めている。





## 水原道子先生の 医院接遇Q & A (最終回)



支部ニュースでは、支部接遇研修会で参加者より寄せられた、日常遭遇する患者さんとの応対やクレーム事例などの疑問点について、シリーズで水原先生にお答え頂きます。

**Q9. 障害を持たれている患者さんに同じことを何度も言わないといけない時の対応は？**

A9. まず、メモにポイントを大きく書き、渡しながらず1回、顔を見ながらゆっくり話しましょう。「ここに書いてあるから、ゆっくり見てね」と言い、一緒にメモを持って字を指で追いながらもう一度繰り返して話しましょう。そして最後に、やさしい目で見ながら「わかった？」と言いながら、自分自身が大きくなずきましょう。

**Q 10. 採血など、何かを心配された時の対応は？**

A 10. やさしい目・やわらかな微笑みで、手などにソフトタッチをして、ひと言「大丈夫ですよ、チクッと蚊が刺すような感じですから」、または「大丈夫ですよ、私、上手なんです！」と明るい笑顔で安心してもらえるような対応を心掛けましょう。胃カメラなど検査に怯えている時などは、タオルなどを着せながら、また、検査台に乗るのを手伝いながら触れ合っている時に「イヤですよ、でも大丈夫、ずっとついていきますから」、「気にしないでどんどん出してください」などと、身近で声を掛けてみましょう。

**Q 11. お年寄りの方で診察後、もう一度患者さんが説明を求められたとき、もう一度先生に診察して頂いていいのでしょうか？**

A 11. 医院の混み具合にもよりますが、本当はもう一度診察室へ戻って、ほんの少し（1～2分）だけでも先生と話すことで、ぐっと納得度・信頼度が上がります。先生には1～2分、そのあとで待合まで数歩一緒に歩きながら看護師さんが補足の説明か言葉を加えると、内容などに関係なく、患者さんは大満足するものです。こうするためには、常日頃から院内で（特にドクターに）患者満足度アップのためのサービス精神を持つことの大切さを確認し合う必要があります。これが「うちの先生」、「うちの病院」という、親愛・信頼感を生むのです。